

[07_5] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :
7(5)

<https://doi.org/10.15017/18260>

出版情報 : 図書館情報. 7 (5), pp.25-32, 1971-05-25. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



新総合図書館の建設

高木 暢 哉

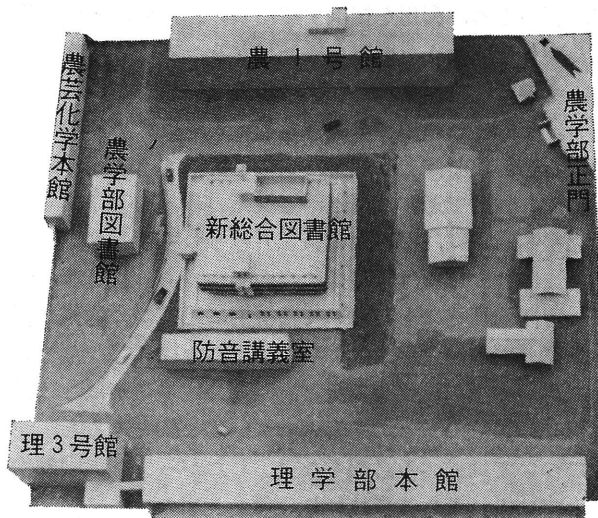
新総合図書館がいよいよ建設されることになる。このことは長いあいだ全九大人によって待望されてきたもの。現図書館が建てられたのは、大正14年のことだった。それからもはや46年の年月がたつ。すでに手狭であり、古びてしまった。いまや情報化時代の到来によって、図書館業務は量質ともに増してきた。またいっそう増そうとしている。図書館の使命と機能が時代の要請にもとづき、飛躍的に重大化するようになってきたからである。

これまでも私たちの図書館は、狭いながら、手不足ながら、この急激な時代の要請に応えるべく、それなりの努力は続けてきたつもりである。しかしこう手狭では、こう古びていては、どうにもならない。随分と多くの不満の声をいただいた。しかしこの陳腐化してしまった現在の図書館のもとでは、どんなにもがいてみても、なしうることにはおのずから限界があろうというもの。その限界が、やがて取り除かれることになる。わが九州大学の教育・研究の発展にとっては、まさに一時期を画する朗報といえよう。昭和46年度国家予算によって、九州大学新総合図書館の建設が認められた。ここに至るについては、各方面の限りない配慮と尽力に負うことが多い。いちいちあげて謝意を表することはしないが、その御好意と御苦心とを、わたくしは現在胸の中できみしめている。

建築予定面積は約 8,000m² である。農学部と理学部とのあいだの緑地帯に建てられる。この地域は、すでに建てこんで来た箱崎キャンパスに残されている唯

一の風致地域である。農学部のしかるべき専門の方々の手によって、新図書館は美しい緑に包まれて、さわやかに静かに聳え立つことになるであろう。農学部や理学部からの利用は、もちろん至近距離にある。文科系4学部からの便利も、ほぼそれに近い。工学部の方は、一部の教室はこれまでよりは遠くなるが、より近くなるものも少なくない。位置からみても、地域からいっても、現在考えるもっとも理想の場所が新図書館のために与えられることになった。名実ともに、箱崎地区においての中央館としての機能を果たすことができるであろう。わたくしは新図書館の設置場所について九州大学が最高・最善の決定をしたと思っている。このことをわたくしは感謝するとともに、そういう決定をしてくれた九州大学を誇りに思う。

現在の図書館は保存図書館として利用されることになるであろう。稀にしか使用することのない図書や資料を全学から集めて、現図書館に収蔵し管理をする。しかも九大には全学にわたり意外にも知られていない貴重な文献や資料が随分とある。そういう特殊的文献資料を収集し、整理し管理



(新総合図書館配置模型)

する部門を、わたくしは今後大いに発展させてゆきたいと思っているが、こうして現在の図書館が単に収蔵機能を営むだけでなしに、閲覧や検索や複写などの機能をも合わせもつ、つまり機能し働く保存図書館・特殊資料館へと発展してゆくであろうことを願っている。

現図書館がこうして図書や資料のかなり多くの部分を引き受けてくれることになるので、新図書館には書庫としては最少限のものを用意しておけばよいことになる。利用頻度の高い文献や資料をおくのに必要なだけの書庫を、さしあたっては新図書館に設けておき、あとは閲覧・参考・整理その他の現実に働く図書館諸機能のためにスペースを全部割くように図書館設計を行なう方針である。遠くない将来において、現図書館が廃棄されるか転用されるようなことが起これば、その分の面積が新図書館につけ加えられて、新たに書庫が建設されることになるであろう。

こうして器が新しくなるのであるから、それに盛りこまれる中身も新しくならねばならない。学部学生にとっては、利用上画期的に便利になるであろう。教官や院生のための研究上の利便がはからねばならない。これらは、文科系だけにとつてのことではない。中央図書館はこれまでは、主に文科系との関連において考えられてきた。これからは、理科系のための図書館としての機能も同様に果されるであろう。情報化の時代が進んでいる。溢れるほどの情報を、豊富に、しかも整理して、至便に、的確に、希望者に利用できるようにこれからの図書館は運営されねばならない。情報処理・検索・提供などの機械化は、まさに時代の方向である。ここ5,6年、長くて10年間のうちに図書館業務には目を疑うような変化が生じるに違いない。単に収蔵する倉庫としての図書館ではなくて、利用され、利用を提供するための図書館、機能し働く図書館に変貌せざるをえないのである。

しかしそのような機能を果たしうるためには、それを可能にする組織や人員や予算が必要とされる。全学の図書館機能が相互に緊密な関連をもつネットに組織されて、協力的に運営される必要がある。それぞれの部局や研究所などが、単にバラバラに独立に図書館業務を営む仕方では、図書館機能を合理化し向上し、また機械を導入することも難しい。これを行なう図書館職員の立場からみても、これまで通りの目と手と根気の職人的手作業のままでよいかどうかは疑問である。これからの図書館職員は、図書館職員以外のものではなすことのできない専門的技術の方向で、みずからの力量を磨き上げるべき時代に当面しつつある。資料の収集・整理・提供などについてのサービスをその専門的技術にもとづいて積極的に迅速かつ的確に行なうことが要請されつつある。それに堪える真の図書館人がこれからは輩出しなければならない。

九大図書館の現状をみると、職員の定員数がはなはだしく少ない。その31名というのは、昭和4年以來の員数である。旧帝大についてこれを見ると、北大の定員は43名、東北大は39名、東大や京大については述べる必要もない。したがって九大図書館は16名の非常勤職員を加えて図書館業務を営んでいる。それに支払われる賃金支出のために、学内で移算される振替拠出額をあてても、なお不足するのが図書館予算の現状である。このために図書や資料の購入が近時しだいに圧迫され、ここ数年来の受入冊数は停滞し、むしろ下向の傾向を示しつつある。図書購入についての不満を訴える学生の投書が絶えないし、しかも強いし、増しつつある。ついでながら、新聞雑誌を含む図書資料に用いた費用は、昭和43年度の決算では、北大 10,000 (千円)、東北大 22,573 に対して九大は 6,112 であって、旧7帝大のうちでも最下位にある。予算面での充実が、九大新図書館が果たすべき、発展した機能の実現のために、今後望まれるわけである。

新図書館の設計に目下かかっている。これまでも鋭意検討されてきたことだが、このことのためかなりの日時を要するであろう。着工は本年の11月ごろになりそうだ。それから2年度にまたがって工事が進められ、明年の秋ごろその姿を前述の緑地帯にあらわすことになるであろう。それから移転その他の準備の作業が行なわれ、開館して学生・院生・教官を迎えることができるのは、明後年すなわち昭和48年の年が明けてからのことのように思われる。(1971. 5. 29)

(たかぎ・のぶや：図書館長)

◆ 会 議

福岡県大学図書館協議会総会および研究総会（昭和46年度）

〈とき：昭和46年5月13日 ところ：九州歯科大学〉

本協議会は、今年から総会と研究総会が同日に行なわれることとなって、午前中は総会、午後に研究総会が開かれた。加盟30館のうち、24館から45名が参加し、議長に九州歯科大学の松下義雄館長を選んで議事が進められた。

総会は、まず理事館（九大）からの経過報告、決算報告等が行なわれたのち、協議題の審議に入ったが、とくに「研究集会のあり方について」に関して熱心な討議が行なわれた。その結果、従来3地区同額であった地区研究会費を、各地区の加盟館数等を勘案して差をつけ、研究総会費とともに、それぞれ増額して研究活動をさらに充実させることにした。役員館の選出に関しては、本協議会創設以来の理事館であった九州大学が、新館建築に伴う事務の繁忙その他の理由により、理事館を強く辞退したため、種々討議の結果、新理事館は福岡地区の加盟館の中から選ぶこととし、今後は理事館が当番館も兼ね、監事館も同地区から選出することとなった。また、今後は3地区から順番に理事館を選出することを決定した。

研究総会は、南部地区を代表して佐賀大学の内田きそ氏、福岡地区は九州芸術工科大学の永芳弘武氏、北部地区は八幡大学の川口鉄男氏が、それぞれ豊富な資料を中心に、各地区の研究集会について、1年間の研究活動の総合報告を行ない、これらについて、長時間、熱心な討議が行なわれ、充実した研究総会であった。

なお、東海大学福岡分校が本年度の新規加盟館として承認された。九州大学からは、長尾整理課長と小野課長補佐が出席した。

九州地区大学図書館協議会総会 第22回（昭和46年度）

〈とき：昭和46年5月21日 ところ：大分大学〉

昨年の総会において、私立部会の有志より提案された「本協議会のあり方」に関しては、改善委員会をつくり検討することとなっていたが、本年2月26日、九州大学において開かれた委員会は、佐賀大、大分大、福岡女子大、北九州大、西南大の各委員館および幹事館の九大が参加して種々検討した結果、1. 総会の会期は1日とする。2. 本協議会の設置別部会（国・公・私立の別）は一応解消し、各部会が独自に適宜会合を持つ。3. 業務別部会として、管理、整理および運用の3部会を新設する。4. 当番館の負担軽減のため懇親会は廃止する。以上の諸点を改善案として決め、各加盟館にはかり、承認を得たので、本年度の総会は、この線に沿って計画されたものである。

総会は、加盟32館（国立10、公立7、私立15）のうち、28館から55名が参加したほか、文部省情報図書館課から岡課長補佐と貴田事務官が出席して開かれた。当番館の後藤学長、白木原館長および本省岡課長補佐の挨拶ののち、白木原館長を議長に選出して議事に入った。まず、幹事館から一般報告があり、昭和45年度決算報告および46年度予算案が承認され、また新規に鹿児島県立短期大学の加盟が認められた。次いで、業務別部会に移り、参加者全員が、各部会に分かれて、それぞれの協議題について、午前中熱心な討議が続けられた。午後は永年勤続者等9名の表彰が行なわれたのち、研究発表があり、本館の鈴木彬司事務官が、「逐次刊行物総合目録の機械化—ミシガン大学の場合」と題し、米国の図書館業務機械化の実情を詳しく紹介した。その後、合同部会が開かれ、各部会の司会者から報告が行なわれたのち、各協議題について審議を行ない、多大の成果を収めることができた。とくに、昨年より問題となっていた「本協議会のあり方について」は、前述の改善委員館において決められた線に沿って運営し、本協議会を充実した意義あるものにするため、各加盟館がさらに一層協力し合うことを確認した。

役員館の選出については、幹事館は九州大学、監査館に九州産業大学、次期当番館は北九州大学と決定した。なお、九州大学から高木館長、長尾整理課長、小野課長補佐が出席した。

表彰された方々のうちで、本学関係者は次のとおりである。山川幸雄、柴田一郎、永田伊助（退職者）、平川友視、中野国治、中村キク（20年以上勤続者）

九州地区国立大学図書館協議会（第1回）

〈とき：昭和46年5月20日 ところ：別府市〉

9大学より館長，事務長等19名が参集して開かれ，九州大学の高木館長を議長に選んで議事に入った。まず，文部省情報図書館課の岡課長補佐から挨拶があったのち，本年度大学図書館関係予算についての説明があり，質疑応答が行なわれた。次いで各館より提出された9協議題について審議した結果，それぞれ次のとおり決定した。

全国国立大学図書館協議会に提案あるいは報告するもの

1. 図書館職員を定員削減の対象外とするよう要望する件
2. 指定図書制度の充実について
3. L. C. カードの利用について
(以上 協議題として提出)
4. 大学図書館の経理に関する調査について
5. 第19回（昭和47年度）国立大学図書館協議会の開催地について—（福岡・九州大学）
(以上 報告事項)

次期役員館は，次のとおりである。連絡館は九州大学，理事館は九州大学および九州芸術工科大学。

なお，九州地区大学図書館協議会国立部会は，国立大学図書館協議会会則第3章第4節により，今回の会議から正式に，九州地区国立大学図書館協議会として発足することとなった。

九州地区医学図書館協議会（第19回）

〈とき：昭和46年5月24日 ところ：久留米大学医学図書館〉

この協議会の加盟館は長崎大，鹿児島大，熊本大，久留米大，九州歯大，九大の6医学図書館である。毎年，各図書館の館長，主任司書等が出席して会議を行なっている。今回は以上のほかに講演者として招へいされた慶応大学医学情報センターの松村多美子女史とオブザーバーとして，九州大学附属図書館の長尾整理課長が出席した。

今回の主な協議事項は(1)テレックス設置計画について，(2)参考業務を行なう上での各館の問題点についてであった。

(1)については，各館が同時に設置しなければその効果が少ないことから，先ず地区センター館的機能が期待される九大で先鞭(せんべん)をつけてほしいとのことであった。九大においてはこの「希望にそうよう前向きに計画を進める」とのことである。

(2)については各館の事情説明，質疑応答がなされ，長尾整理課長からも有益な意見発表があった。

協議会終了後，松村多美子女史による「慶応大学医学情報センターの参考業務を中心とした活動状況について」講演が行なわれた。

— 記事の訂正 —

Vol. 7, No. 4 のレファレンス・コーナー（その3）質問11の記事の一部を次のように訂正いたします。

University Microfilm 社発行の Dissertation abstracts international の原論文のコピー入手に関して，University Microfilm 社の日本における代理店は，人文科学系が雄松堂（東京都新宿区三栄町29），自然科学系は紀伊国屋書店（東京都新宿区角筈1丁目826）です。

学内図書館めぐり

応用力学研究所図書室

応用力学研究所は、昭和17年設立の流体力学研究所と翌18年の弾性工学研究所が、昭和26年国立学校設置法の法令第84号によって合併してできたものである。当初の研究部門は6部門にすぎなかったが、昭和46年に至って12部門（付1）となっている。その間両研究所図書室は、工学部の応理・造船・航空学科等の施設に仮住まいを続けていた。戦後の苦しい出版事情もあって、発足当初の蔵書数はわずか1,500冊にすぎなかった。合併後は新たに航空学科の別棟を借りるなどして一時は不便をかこっていたが、昭和34年3月鉄筋コンクリート13.5坪の書庫を新築し、その一隅で図書主任（教授の併任）と掛員1名で図書業務を行っていた。昭和37年に至ってようやく掛員は2名に増員されたが、図書掛として独立したものでなく、現在でも会計掛に所属している。昭和40年の部門増加に伴い、旧法文学部の哲学・倫理学図書室（32坪）あとに移転、非常勤職員を1名加えたが、昭和42年に定員内職員の退職があると、その後は現在に至るまで定員1名、非常勤3名で日常業務を行っている。当研究所で発行している出版物に関しては、従来より図書主任の監督下に在ったが、各研究部選出の図書出版委員会（5名の所員）に改め、昭和45年度は図書出版行政のうちでかねてからの懸案であった出版関係諸規則を設けることができた。そのような研究報告の出版に関する業務も、図書掛の重要な仕事の一つとなっている。年4回刊行の欧文報告、2回刊行の和文所報、要覧などで、それらが出版されるまでには研究発表会の受付けから、原稿受理、発注、検収、出版および内外関連諸機関との文献交換による資料収集までの一連の業務を行っている。受入れ定期刊行物は約800種、うち外国雑誌170種、和雑誌50種で、他はすべて文献交換によっている。昭和45年末で蔵書数は約16,000冊。冊数にしてはさほど多くはないが、当研究所の研究範囲は広く、応用力学の学理と応用にあるためその蔵書内容は理工学関係の各研究分野にわたっていて、他学部の院生・教職員の利用も盛んである。ちなみに当研究所の図書閲覧貸出規則（付2）は、研究に重点をおき、各研究室購入希望の資料はすべてその研究室の特定文献とするという、他部局図書室にはあまりその例をみられない利用規則が設けられている。図書の分類は、当研究所が独自のL.C.の類型を使用しているが、研究分野・境界領域の拡大などで、今後も必要に応じて改訂を加えていかねばなるまい。ともあれ将来計画25部門に向かって年々その規模も拡大しているおりから改めて研究図書室の在り方を検討すべき時機でもあるようだ。

（付1）

流体研究部：流体力学，水文学，流体力学

材料研究部：弾性学，応用弾性学，塑性学

海洋災害研究部：船舶安全性，耐波浪構造学，沿岸海象力学

高エネルギー工学研究部：高エネルギー材料力学，高エネルギー加工学，高エネルギー流体力学

（付2）

応用力学研究所図書閲覧および貸出規則

第1条 本研究所備付の図書は、すべて本研究所図書室に備え付け、整理保管するものとする。

第2条 本研究所備付図書を、次の五種類に分ける。

第1種 一般図書

第2種 貸出禁止図書（図書室常備の図書）

第3種 特定文献（研究室購入の図書）

第4種 逐次刊行物の完冊（製本済）となったもの。

第5種 逐次刊行物の未完冊（未製本）のもの。

第3条 本研究所備付図書を検索および閲覧することができる者は、本研究所の職員に限る。

但し、本研究所職員外でも、正規の手続きにより承認を得た者は、本研究所職員に準じて閲覧

することができる。

第4条 第2条に定める図書のうち第1，第3，第4および第5のものは、借り出すことができる。

第5条 前条の図書の借り出しは、帯出カードに記名捺印して借用の証とする。第5種にあっては、図書室備付の貸出簿に記帖しなければならない。

第6条 本研究所の職員以外で、図書の借り出しを希望する者は、所属部局の図書室を通して借用しなければならない。

但し、第5種の借り出しをする場合には、本研究所所員の紹介を必要とする。

第7条 借り出した図書は他へ転貸してはならない。

第8条 図書の借り出し冊数および期間を次の通りと

する。

1. 本研究所所員 30冊以内 6ヶ月以内
 2. 本研究所助手 15冊以内 3ヶ月以内
 3. その他の者 5冊以内 1ヶ月以内
- 第4種および第5種の借り出し期間を、1週間とする。

第9条 第3種の特定文献は、これを購入した研究室に限り前条の制限外とする。

第10条 図書借用の職員が、その資格を失ったときは、5日以内に借用図書を返却しなければならない。

第11条 閲覧および借り出しの図書を損傷又は紛失した者は、これを弁償しなければならない。返却期限後1ヶ月を経てもなお返却しないときは、これを紛失したものとみなし弁償させる。

付 則

この規則は昭和43年1月19日から実施する。

(なかの・ひろわき：応用力学研究所図書掛)

— 館員随想 —

広島大学図書館を見学して

井 上 尚 代

昭和44年11月に閲覧部門の様態替えを行ない、レファレンス・サービスの組織化の第一歩として、現在の参考図書室が整備された。以来、参考業務にたずさわってきた私だが、今度広島大学図書館を見学する機会を得て、レファレンス担当1カ年半の経験をとおして、私なりに参考業務のあり方について考えてみたいと思う。

レファレンス・ツールの整備こそ、まず第一歩の業務と考えていた私は、広島大学図書館を見学するに当たっても、書架に並んだ参考図書類にまず目がいってしまう。基本的な参考図書はいずれも似たようなものである。私の場合、利用者からいろんな質問を受ける時、とくに回答に困るのは、種々の学術会議、国際会議に関する質問事項であったので、「Directory of published proceedings」がまっ先に眼についた。手にとってみると、自然科学と人文科学の2冊に分かれて、各巻に主題別索引、著者索引、開催地索引等が記載されており、利用度も高いとか。よい会議資料を知ることができて、たいへん参考になった。早速これを機会に、学会名、主催者、連絡先やその内容までを網羅した calendar や、上記のような proceedings directory を種々検討して整備していきたいと思った。ほかに各国人名辞典、団体名鑑、各専門別索引誌なども、今後より一層充実していきたいものである。九大館報「図書館情報」にも毎号「レファレンス・コーナー」を設けて、参考質問の回答例を掲載しているが、質問を受け、どの文献で調査し、どんな回答を与えたかを、reference card に記入する際、もっとよい回答はなかったかと思うこともしばしばだし、あるいは資料不足のため満足な回答を与えられなかったおりに、レファレンス・ツールの点検と整備の重要性を改めて考えさせられる。なお、広島大学図書館では、参考図書室の入口に総合目録室があって、学内総合目録がよく整備されていたが、九大図書館の場合は一本化されていない不便さがあるので、新館建築に際してはぜひ一カ所に目録カードを集中して利用者の便宜をはかりたいものと思った。

以上述べたレファレンス関係業務のほかに、今後やっていきたい仕事に、二次資料の作成がある。中央図書館として、総合的で利用価値のあるものを検討していくのも重要な課題であろう。目下のところ、九大所蔵の全国特殊コレクション目録などを作成したりしている。文献交換事務も、全学の交換の実情を報告カードによって掌握し、学内の窓口一本化に備えて定型化してきたし、今後は積極的な情報資料の収集に力を入れていきたいものである。直接利用者に接してみて感じることだが、質問を受ける側として参考図書の把握はもちろん大切な要点になるが、それ以外に、利用者の質問要旨を的確につかむ感覚を養うことがレファレンス担当者にとって重要な課題であることを改めて痛感させられている。

(いのうえ・ひさよ：中央図書館情報資料掛)

レファレンス・コーナー

(その4)

—中央図書館情報資料掛—

中央図書館の情報資料掛(電・5310)では、利用者の方々から寄せられてくるいろんな質問事項の調査を行っていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

質問1 英国の科学者 Compbell, J.D.E. の現在の勤務先と住所を知りたい。

回答例 Directory of British scientists 1966-67. (761-D-2) によると、Campbell, John Denis Egbert の住所は 22 Lathbury Rd. Oxford (Tel. 58163) で、現在マンチェスター大学の Asst. Lecturer であり、Admiralty Research Laboratory の Experimental officer 待遇である。

質問2 英国の大学の中で歴史学の学部のある大学名を知りたい。

回答例 World of learning 1969-70 (060-W-1) によると、University of Cambridge には Faculty of History があり、University of London には、Institute of Historical Research がある。その他、歴史学も包含する総合学部或いは教養学部を持っている大学も多数あるが、省略する。

質問3 Dando Shigemitsu: Japanese law of criminal procedure. tr. by B. J. George. 1965, Fred B. Rothman & Co. この本の原価を知りたい。
回答例 Cumulative book index 1966 (010-C-3) によると、Rothman から1966年に出版されており、原価は20ドル(出版当時)。

質問4 Preliminary reports on the copepods found in the tide pool along the north-west coast of Kyushu. By Otohiko Tanaka, Kyushu University. この論文の著者の現住所を知りたい。

回答例 論文の標題から見当をつけて、農学部の附属水産実験所(津屋崎町)に照会したところ、田中於菟彦氏は水産実験所の元所長であることがわかり、現住所を調査のうえ回答した。

質問5 A. L. A. の前会長 F. E. モアハルト氏の名前の英語綴りを知りたい。

回答例 Who's who in America (760-W-5) により、Mohrhardt, Foster Edward という綴りがわかった。

質問6 Hemingway の伝記・評伝等を英語で概略的に書いたものはないか。

回答例 Kunitz: Twentieth century authors (630-K-3), Kunitz: Twentieth century authors. 1st suppl. (630-K-4), New century cyclopedia of names. (030-N-12) を紹介した。

質問7 JAS (ジャス) という雑誌名のフルタイトルは何か。この雑誌の1954年刊のものに S. F. Shen という人の論文が載っているらしいが、その論文名は何か。

回答例 Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur (I.B.Z.) (010-I-17) Abt. B を調査の結果、掲載雑誌は Journal of aeronautical scie-

nces. Vol. 21, 1954, No. 1, P. 62-64 で Shen, S. F. 著の論文の標題は, Calculated amplified oscillations in the plane Poiseville and Blasius flows. である。

附記 最近電話による文献検索の依頼が多くなったが、次にあげる雑誌は括弧内に示すような通称を用いる場合がほとんどであるので、参考のため附記する。Chemical abstracts は, Chem. Ab. (ケミアブ) または C. A. (シーエー), Chemical-Biological Activities は CBAC (シーバック), Journal of the American Chemical Society は, JACS (ジャックス), Philosophical magazine. は, Phil. Mag. (フィルマグ), Proceedings of the Society for Experimental Biology and Medicine は, Proc. Soc. (プロックソック), Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America は, Pro NAS (プロナス), Comptes Rendus Hebdomadaires des séances de l'Académie des Sciences は, C. R. (シーアール) etc.

質問8 三春高基という人物の名前の読み方。中古の日本文学作品の中に登場する人物だと思われるが、どういう人物か。またその作品名。

回答例 古典日本文学全集別巻・古典日本文学史 (542-17), 日本古典文学体系第11巻宇津保物語第2 (542-20) で調査。巻末索引の人名配列から推して、「ミハルタカモト」と推測される。この人物は「宇津保物語」の「あて宮の巻」に「致仕のおとど」として登場する。あて宮に心を寄せる男の中の一人である。

質問9 鑑真の伝記「大和尚東聖伝?」という本の正しい書名は。

回答例 東洋史辞典 (635-149), アジア歴史事典 (635-13) の鑑真の項を見ると、《唐大和上東征伝》という書名が出てくるので、これが正しい書名と思われる。

質問10 児島子遊女の歌く凡ならばかもかもせむを恐みと振りいたき袖をしのびてあるかも)の意味を知りたい。

回答例 万葉集大成 (544-99) の人名索引で、この歌が万葉集歌第6巻965番の歌だとわかる。注釈の一例として、万葉集注釈 (544-106) を見る。〈おおよその方であるならば、どのようにもいたしましょうものを、恐れ多さに、存分に振るべき袖も堪え忍んでおりますことよ〉

質問11 情報処理学会の所在地、学会の内容および会員名簿。

回答例 全国学協会総覧・昭和45年版(199-14)の225pによると、所在地は東京都港区芝公園21号地1の5、創立1960年、正会員2,829人、賛助会員70団体、学生会員29人、名誉会員4人、計2,932人、その他会員の資格の設立目的、会合、分科研究会、機関誌等を回答。会員名簿はない。

利用の窓

昭和45年度：中央図書館および分館学部学生年間利用統計

	学 部	学 生 数	閱 覧 者 数						学生 1 人 当り月間 利用回数
			閉架図書室	開架図書室	入 庫	貸 出	参考図書室	計	
本 館 (中央図書館)	文学部	508人	819人	2,660人	668人	1,114人	595人	5,856人	0.96
	教育学部	162	73	345	28	73	57	576	0.30
	法学部	660	916	7,163	603	857	579	10,118	1.28
	経済学部	595	177	2,583	202	297	236	3,495	0.49
	理・学・部	730	91	6,683	153	285	187	7,399	0.84
	工学部	2,234	367	16,912	518	630	728	19,155	0.71
	農学部	667	101	1,950	68	241	170	2,530	0.32
	医・歯・薬 学 部	891	14	219	13	24	17	287	0.02
	教養部	3,350	29	169	8	9	9	224	0.005
	計	9,797	2,587	38,684	2,261	3,530	2,578	49,640	0.42
医学分館	医・歯・薬 学 部	891	26,724		8,944		35,668		3.34
教養部分館	教養部	3,350	1,204	27,485	1,352	5,662	35,703		0.81
	合 計	9,797	100,297		18,136		2,578	121,011	1.03

備考：学生数は月別学生現員の平均で大学院学生も含む。

なお医学分館は、全館が開架方式のため、入館者数が閲覧者数となっている。

各館の貸出規定は次の通りである。

	帯 出 期 間	帯 出 冊 数
中央図書館	学部学生 8日間 大学院学生 1カ月	3 冊
医学分館	8 日 間	学部学生 3 冊 大学院学生 5 冊
教養部分館	8 日 間	毎日 1 冊

なお中央図書館と医学分館では、指定図書の館外貸出も行なっている。中央図書館の指定図書は、洋書全冊と利用度の低い和書(3,700冊：昭和46年3月現在)。貸出期間は一般書と同等の貸出規定で運営されている。教養部の帯出冊数の1冊は、毎日1人1冊借りられることを意味する。従って帯出期間の8日間を勘案すると、利用者は常時6冊借りておられることになる。

◆ 人事異動

図書館系職員の異動

- 46. 4. 1 前沢 宏信(経済学部会計掛)整理課会計掛へ配置換
- 〃 4.16 山田美代子(事務局庶務課文書掛)整理課庶務掛へ配置換
- 〃 5. 1 高瀬 邦彦(整理課目録掛)農学部図書掛へ配置換
- 〃 札の内 実(教養部分館閲覧掛)整理課目録掛へ配置換
- 〃 伊藤 繁行(整理課目録掛)閲覧課閲覧掛へ配置換
- 〃 中島 冠守(閲覧課閲覧掛)有明工業高等専門学校へ出向
- 〃 5. 4 清水 操(整理課庶務掛)辞職